

第2回

福祉用具専門相談員研究大会

福祉用具活用の更なる深化

— 根拠に基づいた福祉用具の活用 —

プログラム集

- ◆プログラム …… P1
- ◆発表者一覧 …… P2
- ◆演題と要旨 …… P3～11

※本プログラムでは、2021年5月11日時点の情報をお知らせしています。
当日のプログラム内容について、一部変更の可能性がございます。

第2回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

日程：2021年(令和3年)6月21日(月)

会場：日本教育会館(東京都千代田区一ツ橋2-6-2) ※オンライン併用

大会長：小野木 孝二(日本福祉用具供給協会 理事長)

副大会長：岩元 文雄(全国福祉用具専門相談員協会 理事長)

大会テーマ：福祉用具活用の更なる深化 一拠点に基づいた福祉用具の活用一

	第一会場(3階一ツ橋ホール)	第二会場(7階707会議室)	第三会場(7階中会議室)
10:00			
10:30	(受付)		
11:00	開会式		
11:30			
12:00	特別講演		
12:30			
13:00	休憩		
13:30		口述発表テーマ3 (3組)	
14:00	口述発表テーマ2 (7組)	休憩	口述発表テーマ5 (7組)
14:30	休憩	口述発表テーマ4 (4組)	
15:00	口述発表テーマ1 (5組)	休憩	
15:30	休憩	老健事業発表①	
16:00	口述発表テーマ1 (4組)	老健事業発表②	
16:30	休憩	老健事業発表③	
17:00	シンポジウム 閉会式		
17:30			
18:00			

第2回 福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

テーマ1【福祉用具利用効果の追求】 座長：北島 栄二 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	小松 優太	(株)かんきょう 埼玉支店	移動用リフトの可能性の理解と成功体験／外出編	3
2	清水 圭一	(株)柴橋商会	家庭での役割がADL改善に繋がった事例	3
3	石川 卓	(株)柴橋商会	車いす生活の一人暮らしの女性が歩行器を使って歩けるようになるまでの6年間	3
4	村上 博紀	(株)トーカイ倉敷営業課	進行性疾患を持つ利用者の自己実現を叶えるため、屋内移動手段の提案による支援報告	3
5	大谷 智尚	(株)マルベリー さわやかセンター札幌東	自動ラップトイレ効果の追求(介護ロボットにおける排泄ケアについて)	4
6	壽浅 賢二	(同)彩	住宅改修における福祉用具専門相談員の確認事項	4
7	沼田 一恵	(株)aba	障害者グループホームにおける福祉用具利用状況と世話人の対応(利用者の状態変化に着目して)	4
8	水谷 美菜	(株)ライフ・テクノサービス	パーセルインデックスによる福祉用具導入を含むサービス全般の効果測定の実行(福祉用具専門相談員としての専門性のアピール)	4
9	杉本 幸生	(株)トーカイ中野営業所	車いすが使用者の『自分らしい生活』に与える心理的影響(福祉機器心理評価スケール(PIADS)を用いた心理効果の検証)	5

テーマ2【地域、多職種連携の取り組み】 座長：小島 操 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	山内 祐助	(株)トーカイ町田営業所	訪問リハビリと連携し評価場面を共有した事で、タイミング良く福祉用具を見直しご利用者の自立へと繋がった事例	6
2	千葉 誠彦	(株)マルベリー さわやかセンター帯広	多職種連携による福祉用具啓発活動の実施(介護ロボット、福祉用具を通じて繋がる地域)	6
3	川口 雅弘	(株)マルベリー さわやかセンター釧路	福祉用具専門相談員と医療・多職種連携(在宅生活を希望する高齢者の願い)	6
4	秋 嘉徳	(株)カクイックス ウィング 鹿児島営業所	離島地域における多職種とのチームケア(島で迎える最期)	6
5	馬場 亮佑	(株)トーカイ今治営業所	回復期リハビリテーション病棟の退院支援について	7
6	神山 亮輔	(株)トーカイ中野営業所	今後の生活展開を考えながらリハビリスタッフと連携し車椅子調整を行った症例	7
7	粕谷 佳紀	(株)トーカイ足立営業所	ポジショニングとチームアプローチの必要性	7

テーマ3【事業所としての取り組み】 座長：澤田 篤 氏・水越 良行 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	小川 隆之	(株)美濃庄	人材教育事例、福祉用具専門相談員のスキルアップ研修(若手が関心を示す研修って何だろう?)	8
2	浮島 和彦	(株)カクイックス ウィング 延岡営業所	居宅支援事業所の加算算定研修への支援(ケアマネジャー向け研修会でお互いが得るもの)	8
3	山本 隆裕	総合メディカル(株)	介護保険対象外商品についても選定根拠を作る取り組みと、次世代に繋ぐ啓蒙活動	8

テーマ4【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】 座長：澤田 篤 氏・水越 良行 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	廣田 有香	(株)ヤマシタ 大津営業所	からだもこころも支える、リフトのある暮らし	9
2	山元 雄真	(株)カクイックス ウィング 国分営業所	難病指定疾患(ALS)を抱える利用者の支援を経て感じた地域包括ケアシステムの重要性(インフォーマルサービスと介護保険サービスを融合した支援)	9
3	内田 圭一	(株)カクイックス ウィング 鹿児島営業所	福祉用具の活用による満足度と生活意欲の向上(意欲が上がれば生活が変わる)	9
4	清水 琴音	(株)トーカイ岐阜営業課	福祉用具専門相談員の工夫によって外出可能な環境が整い、グループホームからの在宅復帰を果たした事例	9

テーマ5【新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み】 座長：加島 守 氏

No.	発表者	所属	演題（副題）	頁
1	篠原 則正	(有)福祉の店アイコー	新型コロナウイルス感染防止に対する取り組み	10
2	曾和 寛司	(有)スマイルケア	コロナ禍における福祉用具貸与サービスの継続的提供体制構築について	10
3	矢葺 達也	四国医療サービス(株)	新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み	10
4	國井 寿一	(株)タマツ	コロナ禍における業務取り組みの変化	10
5	古門 真	(株)ホームケアサービス山口 北九州店	新型コロナウイルスに負けない事業所運営(感染の徹底防止と柔軟な事業継続)	11
6	杉浦 良一	フランスベッド(株) メディカル横浜中央営業所	職場における、新型コロナウイルス感染症予防対策と、罹患発生時の対応について	11
7	佐藤 大輔	(株)サンメディカル	オンライン担当者会議の現実と今後の課題(「会議や多職種連携におけるICTの活用」は浸透するのか)	11

テーマ1 【福祉用具利用効果の追求】 演題と要旨

氏名(所属)	
コマツ ユウタ 小松 優太 (株式会社かんきょう埼玉支店)	
演題 (副題)	移動用リフトの可能性の理解と成功体験／外出編
要旨	利用者は80代女性。(要介護3)脳出血後の後遺症として、左上下肢麻痺が残存。リハビリ病院にて3カ月程リハビリを実施。座位は安定しているものの、車椅子への移乗は介助が必要。歩行は難しく、立位が数秒程度取れるような状況。概ねリハビリとしてはゴールのため、退院に向けた家屋調査を行った。キーパーソンは近隣に在住している娘様。同居している長男様は就労があり、平日日中は不在。車椅子での安全な外出経路や外出方法を検討した。

氏名(所属)	
シズメ ケイイチ 清水 圭一 (株式会社柴橋商会)	
演題 (副題)	家庭での役割がADL改善に繋がった事例
要旨	足を骨折されたことで重度な介護状態となったが、これまで通り家事を自身の役割として続けたいと目標を持つ利用者に対しその思いに寄り添いながら提案し取り組んだ。 ADLの改善に伴ってアセスメントを重ねたことで、ご利用者の意欲を引き出すことに繋がった事例を紹介。

氏名(所属)	
イシカワ タク 石川 卓 (株式会社柴橋商会)	
演題 (副題)	車いす生活の一人暮らしの女性が歩行器を使って歩けるようになるまでの6年間
要旨	右大腿骨顆上骨折後、リハビリを経て退院となった独居女性(当時76歳)と福祉用具貸与で関わる事となる。それから現在までの約6年間で、通所リハビリ、訪問リハビリ、ケアマネジャー等と連携し、適した歩行器を選定、提供した事で、車いすでしか移動できなかった状態から歩行ができるまでに回復された。その概要から福祉用具の重要性を考察する。

氏名(所属)	
ムラカミ ヒロキ 村上 博紀 (株式会社トーカイ中国九州営業部倉敷営業課)	
演題 (副題)	進行性疾患を持つ利用者の自己実現を叶えるため、屋内移動手段の提案による支援報告
要旨	多系統萎縮症のご利用者は「自分でトイレまで行きたい」と病状による歩行バランス低下により転倒を繰り返していた。ご自身で工夫され台車に電話帳等を何冊も載せて歩行器代わりに使用するも改善できず、介入する事となった。最初は歩行器を検討したが操作が難しく解決に至らなかったため、予後を踏まえ車いすに乗って自分で移動して頂く事を提案した。導入後「転倒しなくなり自分でトイレに行けるようになった」と笑顔でゆっくりとした口調で話されたが、その後病状の進行もあり、下肢筋力の低下が進んでしまった。進行性の難病という事もあったが、結果としてQOLは向上したがADLは下がった事例といえる。

氏 名(所 属)	
スギモト コウキ 杉本 幸生 (株式会社トーカイ中野営業所)	
演題 (副題)	車いすが使用者の『自分らしい生活』に与える心理的影響 (福祉機器心理評価スケール (PIADS) を用いた心理効果の検証)
要旨	車いすが使用者にとって『自分らしい生活にどの程度影響を与え、使用者はどう感じている』のかを数値化し検証する為、介護保険で車いすの貸与を受け屋外で1ヶ月以上使用している要介護2～4の車いす使用者50名(男性25名、女性25名)、認知症日常生活自立度I以下の方を対象に、福祉機器心理評価スケール (PIADS) を用いて聴き取りを行い、「車いすを使用していない状態」、車いす使用後の「効力感」「積極適応」「自尊心」の違いをkruskal-Wallis検定で確認し、その後に多重比較を行って差異を検討し考察をまとめた。

テーマ2【地域、多職種連携の取り組み】 演題と要旨

氏名(所属)	
ヤマウチ ユウスケ 山内 祐助 (株式会社トーカイ町田営業所)	
演題	訪問リハビリと連携し評価場面を共有した事で、タイミング良く福祉用具を見直しご利用者の自立へと繋がった事例
要旨	福祉用具貸与は必要な時に必要な物を利用頂くサービス。訪問リハビリの理学療法士と連携し、ご利用者が在宅でリハビリを行う過程で定期的な評価を行う場面を共有し、都度状態に応じ福祉用具を変更した事でご利用者の自立へと繋がった事例を紹介する。

氏名(所属)	
チバ マサヒコ 千葉 誠彦 (株式会社マルベリーさわやかセンター帯広)	
演題 (副題)	多職種連携による福祉用具啓発活動の実施 (介護ロボット、福祉用具を通じて繋がる地域)
要旨	2019年度北海道介護ロボット普及推進事業(道東地区)の一環としての活動及び多職種との連携による福祉用具事業所の将来を見据えた地域への一年間の活動内容を紹介する。

氏名(所属)	
カワガチ マサヒロ 川口 雅弘 (株式会社マルベリーさわやかセンター釧路)	
演題 (副題)	福祉用具専門相談員と医療・多職種連携 (在宅生活を希望する高齢者の願い)
要旨	在宅生活を希望される高齢者を支援するために、福祉用具専門相談員と医療従事者、多職種で何ができるのか。現在の状況では、自宅での独居生活は困難である。安全に不安なく在宅生活が続けられる手段をチームで検討。 各専門分野での目線で注意事項や動作の確認、病状を安定させる薬の管理、服薬方法など打ち合わせ、福祉用具で改善できる方法見出し検討した。 福祉用具の導入、住環境の整備、介護保険サービスの調整が整い無事に退院となり、在宅生活を送れるようになった。 在宅復帰には医療と多職種の連携、福祉用具専門相談員の的確な用具の選定提案、住環境整備が大切であり、継続的な福祉用具の普及推進が重要である。

氏名(所属)	
アキ シノリ 秋 嘉徳 (株式会社カクイックスウィング鹿児島営業所)	
演題 (副題)	離島地域における多職種とのチームケア (島で迎える最期)
要旨	介護保険サービスが非常に限られている離島地域において、他の職種との連携の在り方や離島でのターミナルケアについて報告する。

氏 名(所 属)	
ババ リョウスケ 馬場 亮佑 (株式会社トーカイ今治営業所)	
演題 (副題)	回復期リハビリテーション病棟の退院支援について
要旨	医療機関（回復期）に入院中に患者様が使用する福祉用具は院内の備品を用いる事が多く、退院後の生活の事は考慮されていない事が多い。病院リハ職と連携し入院中から個別性の高い福祉用具の提供を行うことで、患者様が安全な在宅生活にスムーズに移行できるための取り組みについて紹介する。

氏 名(所 属)	
コヤマ リョウスケ 発表者：神山 亮輔 (株式会社トーカイ中野営業所) オツカ セイ 協働研究者：大塚 誠見 (代々木病院)	
演題 (副題)	今後の生活展開を考えながらリハビリスタッフと連携し車椅子調整を行った症例
要旨	今回長期間ベッドにて安静臥床となった急変リスクの高い症例を通し「車椅子主体の生活」を望む主介護者と「安楽に過ごしたい」と話されるご本人様に対して、入院中から作業療法士と連携し車椅子調整を行なう機会を得た。福祉用具専門相談員として車椅子調整を支援するだけでなく利用場面や頻度、乗車時間など連続的な視点も鑑みる必要があることを学んだ。本稿では、症例に提供したモジュール型車椅子と在宅場面で使用していた簡易型車椅子との相違を明らかにし、車椅子変更に伴う生活展開の変化を比較検討した。

氏 名(所 属)	
カサヤ ヨシキ 粕谷 佳紀 (株式会社トーカイ足立営業所)	
演題 (副題)	ポジショニングとチームアプローチの必要性
要旨	臥床時間の長いご利用者には体圧分散や除圧が必要であり、身体状況に合わせて筋緊張の緩和や拘縮を予防、寝返り時に皮膚への刺激を軽減することも大切となる。その方法やスキル（ポジショニング）は現場で学ぶ事が多く、実際の事例を通してポジショニングクッションの導入事例を報告する。

テーマ3【事業所としての取り組み】 演題と要旨

氏名(所属)	
カガリ カキ 小川 隆之 (株式会社美濃庄)	
演題 (副題)	人材教育事例、福祉用具専門相談員のスキルアップ研修 (若手が関心を示す研修って何だろう?)
要旨	① 実際の家を使って住宅改修研修をしてみよう ② モニタリングの点検項目をみんなで検討しよう 以上の2つの項目についての報告である。

氏名(所属)	
ウキマ カズヒコ 浮島 和彦 (株式会社カクイックスウィング)	
演題 (副題)	居宅支援事業所の加算算定研修への支援 (ケアマネジャー向け研修会でお互いが得るもの)
要旨	居宅特定事業所加算算定研修の一部を請け負い、研修会を自己開催し自己研鑽していきながらケアマネジャーとのスキルの共有、支援の連携を取りやすくしていくことで良質なサービス提供を行う。

氏名(所属)	
ヤマト タカヒロ 山本 隆裕 (総合メディカル株式会社)	
演題 (副題)	介護保険対象外商品についても選定根拠を作る取り組みと、次世代に繋ぐ啓蒙活動
要旨	弊社では生活の基本となる「衣食住」について社内で独自の研修や検証作業を実施し、介護保険対象商品以外についても選定根拠を作り学習している。同時に次世代に繋ぐ活動を小中学校で福祉体験授業として実施している。地道な活動だが、どちらも福祉用具の普及と人材育成に向けて必要と認識している。

テーマ4 【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】 演題と要旨

氏名(所属)	
ヒロタ コ 廣田 有香 (株式会社ヤマシタ大津営業所)	
演題 (副題)	からだもこころも支える、リフトのある暮らし
要旨	特別養護老人ホームに入所中の80代女性(要介護度5、レビー小体型認知症、全介助)。ご本人は在宅へ帰りたいとの意向。娘様より抱え上げによる移乗は困難な為、在宅ではリフトを使用したいと申し出あり。退所前後の約3ヶ月をかけて娘様へリフトの使い方の指導とスリングシートの選定を行う。このケースを通じて介護負担軽減だけでなく、ご本人と介助者双方の心の余裕を生み出してくれるリフトの有用性とその気づきについて報告する。

氏名(所属)	
ヤマト コマ 山元 雄真 (株式会社カクイックスウイング国分営業所)	
演題 (副題)	難病指定疾患(ALS)を抱える利用者の支援を経て感じた地域包括ケアシステムの重要性 (インフォーマルサービスと介護保険サービスを融合した支援)
要旨	ALSを患った利用者A様の支援を振り返り、地域包括ケアシステムに福祉用具専門相談員がどのように関わるかを考察し、今後独居高齢者の支援を行う上でより他の介護保険サービス・インフォーマルサービスと連携を取り、支援を行えるように振り返りを行う。

氏名(所属)	
ウチダ ケイイチ 内田 圭一 (株式会社カクイックスウイング鹿児島営業所)	
演題 (副題)	ノルディックポールの利用による満足度と生活意欲の向上 (意欲が上がれば生活が変わる)
要旨	脳梗塞の後遺症によって、歩行姿勢に悩みを抱える80歳男性への歩行補助杖選定支援の関わりにおいて、ノルディックポールを選定した事により歩行姿勢が安定し、歩く姿に自信を持てるようになったことで、毎日の散歩や近隣への買い物、さらにデイサービスに通うことになり、生活意欲が向上していった事例を報告する。

氏名(所属)	
シズ コトネ 清水 琴音 (株式会社トーカイ岐阜営業課)	
演題 (副題)	福祉用具専門相談員の工夫によって外出可能な環境が整い、グループホームからの在宅復帰を果たした事例。
要旨	グループホームに入所していたご利用者は、在宅生活を強く希望していたが、介護疲れを危惧しているご家族にとっては自分の時間が必要であり、在宅復帰の条件として通所サービスの利用が必要だった。車いす生活のご利用者が在宅復帰する為には環境上の問題として、車いすで玄関の框を昇降する必要があったが、家屋の構造上昇リフトの設置が行えない事がわかった。そこで、木製の台を設置する工夫を行う事でリフトの設置条件を満たし環境上の問題をクリアした。通所サービスが利用できる様になった事で兼ねてから希望されていた在宅復帰が叶った。また、ご利用者が通所サービスを利用する事で、ご家族の時間を持つ事も叶った。

テーマ5【新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み】 演題と要旨

氏名(所属)	
シハラ リマサ 篠原 則正 (有限会社福祉の店アイコー)	
演題 (副題)	新型コロナウイルス感染防止に対する取り組み
要旨	弊社における新型コロナウイルス感染防止対策について発表する。

氏名(所属)	
ワリ カジ 曾和 寛司 (有限会社スマイルケア)	
演題 (副題)	コロナ禍における福祉用具貸与サービスの継続的提供体制構築について
要旨	コロナ禍拡大において、移動制限に伴い人との接点が限定される中、日常生活を支えるべく福祉用具貸与サービスを安定的、継続的にお客様へ提供していくにあたり、我々福祉用具貸与事業所が従業員の感染リスクも減らしつつ実施した取り組みと、その結果、お客様やケアマネジャーに評価頂いたことについて発表を行う。

氏名(所属)	
ヤブキ タツヤ 矢暮 達也 (四国医療サービス株式会社)	
演題 (副題)	新型コロナウイルス感染症に対応する取り組み
要旨	事業を継続実施するためには活動エリアに合ったできうる限りの感染予防の徹底が必要である。万が一に備えた体制の構築、今後の課題も含めその一部を報告する。

氏名(所属)	
ケイ ジュンイチ 國井 寿一 (株式会社タマツ)	
演題 (副題)	コロナ禍における業務取り組みの変化
要旨	新型コロナウイルスが社会に浸透していく過程で、業務への取り組みも変化が必要となった。社会の流れと共に、変化していった仕組みや新たな社会資源を活用した業務について報告する。

氏名(所属)	
フルカト マコト 古門 真 (株式会社ホームケアサービス山口北九州店)	
演題 (副題)	新型コロナウイルスに負けない事業所運営
要旨	抵抗力の弱い利用者に感染させないために、従業員一同が感染防止の徹底を行い、可能な限り事業の継続に取り組んだ試みの報告と、今後の課題について発表する。

氏名(所属)	
スギウラ リョウイチ 杉浦 良一 (フランスベッド株式会社メディカル横浜中央営業所)	
演題 (副題)	職場における、新型コロナウイルス感染症予防対策と、罹患者発生時の対応について
要旨	新型コロナウイルスという見えない敵との闘いに対し、職員 8 名の営業所においてどのような感染症予防対策が必要か、また、感染拡大防止に取り組んでいてもなお、罹患者が発生した際に、社外・社内に対して、その取り組みがどのように活かされたのか、そして、どういった問題や課題があったのかを事例をもって紹介する。

氏名(所属)	
サウ ダイスケ 佐藤 大輔 (株式会社サンメディカル)	
演題 (副題)	オンライン担当者会議の現実と今後の課題 (会議や多職種連携における ICT の活用は浸透するのか)
要旨	実際にオンライン担当者会議を開催してみる。 コロナ禍をきっかけにいよいよ動き出した日本のデジタル化。令和 3 年度介護報酬改定でも「会議や多職種連携における ICT」の活用が謳われている。しかし、現場では一向にオンラインのサービス担当者会議招集はない。 そもそもオンライン担当者会議にメリットはあるのか、開催に必要なものは何なのか、どうしてオンライン会議は開催されないのか、実際にオンライン担当者会議を開催し、現状の確認と今後の課題を考察した。